

# 呉錦堂を語る会通信

NO.2 May. 2012

発行 兵庫県芦屋市岩園町3-12

呉錦堂有限会社内「呉錦堂を語る会」

Tel. 090-7876-6005

編集 「呉錦堂を語る会通信」編集委員

発行日 2012年5月1日



## 呉錦堂が開拓した神出小東野(こそくの) (お祭り訪問編)

2009年の2月11日、呉錦堂令孫呉伯瑄氏ご夫妻と私(橘)は、はじめて小東野村のお祭りに参加した。そして、今年の2月11日、再びチャンスがやって来て、今回は、呉氏ご夫妻、安井三吉孫文記念館館長、呉氏の知人、そして橘の5人の小東野行となった。(写真について、特に断りのないものは今回の撮影です)



お稲荷さん前の広場で行われた子供たちの相撲



顕彰碑前のお供え (2009年撮影)

呉錦堂が開拓した小東野には、現在、彼の業績を顕彰する碑が4ヶ所に立っている。このうち、最も重要なのは、小東野集落の中にある石碑で、碑文は、小東野の今日の繁栄の基礎を作った人物として呉錦堂に感謝し、その偉業を称えている。

小東野村は現在、約120戸を有する。村の人たちは、呉錦堂への感謝とお稲荷さんの初午を併せ、この顕彰碑の横、お稲荷さんの前にある広場でお祭りをしている。本来、初午の日に行っていたが、休日の方が人が集まりやすいということで、今は、

2月11日、建国記念の日になっている。顕彰碑とお稲荷さんにお供えをしたあと、お稲荷さんの前の狭い広場で子供が相撲をとる。祭りに参加した人には、餅が配られ、粕汁、赤飯、お酒などがふるまわれる。

私たちは、お稲荷さんの前、消防団の倉庫の横に並べられたテーブル席で、子どもたちの相撲を見ながら、村の人たちとの話を楽しんだ。村人の中に、昔を知る人は減ってきている。それでも、少数ながら、おそらく祖父母や両親からの伝聞なのだろうけれど、呉錦堂の開拓にまつわる話を知っている人が居られるようで、呉伯瑄氏ご夫妻と村の人たちとの話は弾んでいた。奥様は出された赤飯のおむすびを「お祖父さんにお供えする」と言って持ち帰られた。お祖父さんが開拓した小東野の米でつくられたおむすびということで、特別な感慨があったのだろう。

呉伯瑄氏ご夫妻にとって、この日の小東野訪問は特別な一日になったようで、お誘いした者としてうれしかった。



村の人たちと話が弾む呉伯瑄氏

### 小東野開拓略史

- 1908年 呉錦堂、啓藩名義で小東野の土地購入。小東野開墾の文書は全て啓藩名義
- 1911年 県から明石郡神出村小東野の耕地整理の認可下りる
- 1915年 山田川疎水幹線工事竣工
- 1916年 小東野開墾工事開始
- 1917年 開墾地への入植始まる
- 1921年 入植累計戸数20戸、約70人、開田合計35.5町歩
- 1926年 呉錦堂病没。開田合計64.6町歩
- 1929年 呉敬藩、県へ開墾打ち切りの届提出



小東野村の呉錦堂顕彰碑前で記念撮影  
呉伯瑄氏ご夫妻と村の人たち





1986年4月20日、移情閣友の会のバス旅行“呉錦堂の足跡を訪ねて”。小東野公会堂で山本富恵さんのお話を聴く友の会会員。

左の写真、陳徳仁孫文記念館副館長と山本さん。右の写真、前列中央は山口一郎館長



上の写真は、農産物直売所やレストランをもった兵庫楽農生活センター「かんでかんで」。この西斜面、道路脇に「呉錦堂屋敷跡」の標識がある。左の写真は呉伯瑄氏ご夫妻



小東野墓地の遠祖供養塔。小東野開拓にやって来て倒れた中国人もこの墓に眠る



「呉里豊穰」碑で。右から、木戸土地改良区総代、廣田自治会長、呉氏ご夫妻、安井館長、汐谷水利組合長



2009年撮影



村の人との交流。左から山本さん、大西さん、呉氏



お祭り会場。右端に見えるのが呉錦堂顕彰碑

■ 編集後記

小東野に、呉錦堂の事業を顕彰し、感謝をささげるこのような行事が続いていることは、「呉錦堂を語る会」の会員として、大変うれしいことです。良い記事が作れたこと、小東野の方々に感謝いたします。(編集委員 橋 雄三)